

東アジアにおける異文化理解と受容の諸相

趣旨説明

宇佐美 一博 (愛知大学人文社会学研究所前所長)



1. 近世日本における行列

久住 祐一郎 (豊橋市美術博物館学芸員)



2. エジプトと中央アジアのミイラの復活観念 が中国の仙人を生み出したのでは?

— パルメット、鹿角文様と羽人と龍 —

大形 徹 (大阪府立大学名誉教授・立命館大学特別招聘研究教授)



3. 中国法は公平か

— 古典学者章炳麟の中国法批判 —

小林 武 (京都産業大学名誉教授)



4. 空海と現代中国の仏教

静 慈圓 (高野山大学名誉教授・第519世「法印」)



視聴方法

QRコードより趣旨説明の動画をご覧いただけます。

1～4の講座については、ご希望の動画番号をご指定の上、氏名・職業・連絡先を添えて、E-mail: irhsa@ml.aichi-u.ac.jp までお気軽にお申し込みください。URLをお送りいたします。



趣 旨

東アジア地域は漢字文化圏と呼ばれ、同一性が強調されがちですが、実際には政治・社会の体制を始め、漢字・言語、その他さまざまな文化において各国かなりの違いが存在します。

東アジア文化を研究するには、日本、中国、台湾、韓国、北朝鮮それぞれの国々が、異文化をどのように理解し受容したのか、違いがあれば、なぜそのような違いが生じたのか、その理由を明らかにする必要があります。また、文化の交流がどのように行われたのか、西洋の文化との関わりも視野に入れつつ、東アジアにおける文化交流の実態を解明することも重要です。現在日本と中国、日本と韓国、日本と北朝鮮の関係は、政治的・経済的にかなり緊迫した状況にあります。このような時こそまず相手の文化及びお互いのこれまでの関係を十分に理解して交流を続けていくことが重要ではないかと考えます。

今回の4人の講師の方々のご講演は、東アジアの中の、日本、中国の異文化理解と受容及び交流の諸相に焦点を当てたものですが、これらの講演によってお互いの文化の違いを知るとともに、お互いの文化の緊密な関係をも再認識し、ひいては現在の日中関係を考え直すきっかけになればと願っています。

久住 祐一郎

(くすみ ゆういちろう)

豊橋市美術博物館学芸員。専攻：近世交通史、三河吉田藩・二川宿など豊橋の地域史。著書『東海道二川宿における商家の経営と地域金融』（『三河』雄山閣、2016）、『三河吉田藩・お国入り道中記』（集英社インターナショナル、2019）、『シリーズ藩物語 三河吉田藩』（現代書館、2019）

大形 徹

(おおがた とおる)

大阪府立大学名誉教授・立命館大学特別招聘研究教授。専攻：中国哲学（特に道教・神仙思想）

著書『不老不死—仙人の誕生と神仙術—』（講談社、1992）
『魂のありか—中国古代の靈魂観』（角川書店、2000）

小林 武

(こばやし たけし)

京都産業大学名誉教授。専攻：中国近代思想史。西洋近代思想や明治思想との関係の中で研究。著書『章炳麟と明治思潮—もう一つの近代—』（研文出版、2006）、『清末功利思想と日本』（佐藤豊氏との共著。研文出版、2011）『章太炎と明治思潮』（上海人民出版社、2018）、『中国近代思想研究』（朋友書店、2019）

静 慈圓

(しずか じえん)

高野山大学名誉教授・第519世「法印」。専攻：密教学。著書『空海密教の源流と展開』（大蔵出版、1994）、『空海入唐の道』（朱鷺書房、2003）、『空海の行動と思想』（法蔵館、2009）、『弘法大師空海の金言をひらく』（セルバ出版、2014）